

# 日本の トップランナー企業

# 日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

10月16日 曜日

2023年（令和5年）

## 東西電気産業

# 欲しいものが「あった！」という感動を届ける 光源・照明のエキスパート

東西電気産業（大阪市浪速区）は1948年の創業以来、ランプ、ソケット、LEDなど、光源や照明関連機器の製造や販売を手がけてきた。毎年、600社以上の顧客から2万件を超える発注や相談を受けており、特に電球類の累計販売個数は5億個以上になる。2022年に三代目となる神保紘史氏が社長に就任し、新たなLED製品の開発のほか、技術の継承や人材育成に力を入れる。「照明ワンストップのTOZAI（トウザイ）」を標ぼうし、製品や技術、情報とともに「あった！」という感動を届けることで、照明業界での存在感をさらに高めようとしている。

## 信頼関係が 強み



▲豊富な種類を取り扱うLEDテープライト

## 積極的に 人材採用

神保社長は大手電機メーカーを経て、2020年に入社し、22年に父で前社長の健作氏（現・取締役相談役）から経営トップのバトンを引き継いだ。社長就任後は「会社を一緒に盛り上げてくれる人をリクルートするのが最大の使命」と自らに課し、人材採用に積極的に動いた。現在、従業員数は約30人で、そのうちの4割は平均勤続年数が30年のベテラン、残りの6割は入社5年未満という。今回、フィラメントLED電球開発という取り組みを届けた。トウザイと一緒に仕事をしていくと楽しい、新しい世界を見せてくれると期待される存在でありたい」と神保社長。顧客や仕入れ先とともに、光源や照明の未来に向かって、前進を続けるつもりだ。

## フィラメント LED

今年10月、白熱電球LED電球を新製品としての光や輝きを再現して市場投入した。2フィラメントタイプの 年半前から主に看板・



▲全面ガラス採用のフィラメントLED電球

装飾用として、夕日や朝日の色に近い光を放出化され、1000年以内のLED電球を販売している。LEDの普及が、店舗やホテルなどが進む昨今だが、白熱電球の空間演出向けに「白熱電球と同じものがほしい」という顧客の要望もあり、新たに開発した。発光部をヒートシンクに乗せ、半透明のプラスチックカバーで覆うのではなく、全面ガラスを採用することで光が美しく広がる。神保社長は、今までにないような光の再現を目指し、滑らかなリッカーと呼ばれるちらつきを極限まで抑えると同時に、滑らかな調光を実現したほか、電球の発熱を防ぎ、放熱効果を高めて製品寿命の低下を防ぐ工夫も施した。

1948年、神保社長の祖父が電球類や付属品の卸売業として創業した。電球は口金のサイズやガラスの仕様、明るさなどがアイテムごとに異なり、市場に出回る製品は多岐に渡る。自社ブランド製品のほか、大手から家族経営のメーカーまで、幅広い仕入れ先から1万点以上に及ぶ製品を取り揃えること

の強みを生かして光源や照明に関するあらゆる情報を集約し、製品調達だけではなく、アフターサービスも含め、「光のことならどなたでも」というメッセージが込められる。特に機器・装置メーカーに対しては赤外線や可視光、紫外線などの機器



▲神保紘史 社長

神保社長は「数多くの顧客や仕入れ先との信頼関係こそが自社の強み」という。企業子機器をワンストップで取り揃えるほか、仕様変更や部材加工などのフィラメントLED電球開発という取り組みを届けた。トウザイと一緒に仕事をしていくと楽しい、新しい世界を見せてくれると期待される存在でありたい」と神保社長。顧客や仕入れ先とともに、光源や照明の未来に向かって、前進を続けるつもりだ。



本店 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階  
TEL. 06-6649-1001 FAX. 06-6649-5046  
東京店 〒145-0064 東京都大田区上池台1-3-5  
TEL. 03-3784-3711 FAX. 03-3784-3719

<https://www.tozaidensan.co.jp/>